

2026年、AIが「身体」 を手に入れた

スマホの次を狙う最新AIデバイス完全ガイド

ChatGPT 4億ユーザーが証明した「画面の限界」

- ChatGPTの月間ユーザーは4億人を突破し、AI対話が日常行為になった
- スマホの小さな画面とタッチ操作では、AIの能力を引き出しきれない
- 音声・視覚・身体性を備えた専用デバイスへの需要が急増している
- 2026年のCESでは過去最多のAIデバイスが出展された

2026年AIデバイス 5つのカテゴリ

- スマートグラス：視界にAI情報を重ねる次世代インターフェース
- ウェアラブルAI：リング・ペンダント型で常時身につけるアシスタント
- AIコンパニオン：感情を持ち「一緒にいる」存在として設計されたデバイス
- エッジAIコンピュータ：クラウド不要で動く手のひらサイズの推論マシン
- 家庭用AIロボット：洗濯・掃除・階段昇降をこなす実用ロボット

Google AIグラス： Gemini搭載で2026年内発売

- Samsung・Gentle Monster・Warby Parkerの3社と提携し量産体制を構築
- Android XR OS上でGemini AIがリアルタイムに応答する
- オーディオ専用型とディスプレイ内蔵型の2ラインナップで展開
- 度付きレンズに対応し、普段使いのメガネとして違和感なく着用できる

音声型 vs ディスプレイ型：用途で選ぶAIグラス

オーディオ型（音声特化）	ディスプレイ型（視覚拡張）
スピーカー+マイク+カメラを搭載	レンズ内蔵ディスプレイでAR情報を表示
Gemini AIと音声で自然に対話できる	リアルタイム翻訳やナビゲーションを視界に重ねる
軽量設計で長時間着用しても疲れにくい	ハンズフリーで情報確認が可能になる
競合Ray-Ban Meta Gen2はバッテリー8時間を実現	バッテリーとレンズ重量のトレードオフが課題

スマートグラス市場は2大陣営の激突へ

- Google + Samsung陣営がAndroid XR + Geminiで攻める
- Meta + Ray-Ban陣営はGen3でカメラ性能・AI統合を大幅強化する
- Razer Project Motokoはデュアルカメラ＋フルAI処理のゲーマー向け
- 2026年内に日本市場へもRay-Ban Meta正式上陸が予定されている

OpenAI × Jony Ive : 65億ドルで「ポストスマホ」に挑む

- Sam AltmanとJony Ive（元Apple CDO）が共同でAIデバイスを開発中
- IO社を65億ドルで買収しハードウェアチームを一気に統合した
- Foxconnが製造を担当し、初期生産は4,000～5,000万台規模を計画
- 2026年後半に情報公開、その後発売を目指すスケジュール

開発中の3つのフォームファクター

AIペン

手書きノートをChatGPTに直接送信し、
書きながら音声で対話できるペン型デバイス

AIイヤホン「Sweetpea」

耳に装着するだけでリアルタイムに

ポケット端末

スクリーンなし・
カメラとマイクで周囲を理解し文脈に応じて支援するコア端末

共通思想

すべてのデバイスが「画面を見ない」

Altmanが描く「スマホより平和な」未来

ユーザーはそのシンプルさに驚くだろう。我々が目指しているのは、
スマホよりも平和なデバイスだ。

—

Sam Altman, CEO of OpenAI

Tiiny AI Pocket Lab : 300gで1200億パラメータを動かす

- 142×80×22mm・300gのポケットサイズに80GB RAMと1TB SSDを搭載
- CPU + NPU + dNPUの3チップ構成で190 INT8 TOPSの演算性能を実現
- 1200億パラメータのLLMを毎秒20トークン以上でオフライン推論する
- Wi-Fi 6 (2.4Gbps) + Bluetooth 5.3でローカルAIサーバーとしても機能

エッジAIが選ばれる4つの理由

プライバシー

機密データが端末の外に一切出ないため、
医療・法務・金融でも安心して使える

ゼロレイテンシ

ネットワーク遅延がなく、
リアルタイム応答が必要な現場作業に最適

コスト削減

API従量課金が不要で、
1度買えば無制限にAI推論を実行できる

オフライン動作

飛行機内・災害時・
通信圏外でもAIアシスタントが止まらない

Kickstarterで\$1,399から——エッジAI市場が立ち上がる

- Tiiny AI Pocket LabはKickstarterで2026年2月にキャンペーン開始
- 早期支援者向け価格は\$1,399、一般販売はさらに高価格になる見込み
- 開発者向けローカルAI開発環境としてOSSコミュニティの注目を集めている
- NPU搭載が標準化し、2027年にはノートPC内蔵も視野に入る

Pebble Index 01：\$75で始めるAIリング生活

- 指に装着しボタンを押して話すだけでメモ・リマインダーを即座に登録
- Claude搭載のオフラインLLMがアプリ内で会話を分析・整理する
- 予約価格\$75（出荷後\$99）で、AIウェアラブル最安クラスを実現
- 2026年3月出荷開始、充電ケース付きでバッテリー持続は終日

Lepro Ami：目が合うAIコンパニオン

- 8インチOLEDディスプレイにキャラクターが表示され感情豊かに反応する
- アイトラッキング搭載で実際にユーザーと「目が合う」体験を実現
- 仮想の友人が「本当にそこにいる」感覚を再現する新カテゴリ製品
- CES 2026で発表され、孤独社会へのAIソリューションとして注目を集めた

常時記録→AI要約——ライフログ時代が始まる

- SwitchBot AI Mindclipは会話を常時録音しAIが要約するラペルピン型デバイス
- Limitless (\$99) やPlaud NotePin (\$159) も会議の文字起こしに特化して人気
- Bee (\$49.99) はAIペンダント型で日常を記録しリマインダーを自動生成する
- 「すべてを記録してAIに整理させる」習慣が広がる一方、プライバシーが最大の課題

CES 2026：洗濯を畳み階段を昇るロボットたち

- LG CLOiDは洗濯物を畳みキッチン作業をこなすヒューマノイド型ロボット
- Dreame Cyber Xは4本脚ベースで階段を自力昇降するロボット掃除機
- SwitchBot Onero H1は床の衣類を拾い上げて洗濯機に投入するヘルパーロボット
- 3製品とも2026年内の一般販売を予定している

2026年が家庭用ロボット元年になる3つの理由

- AIビジョンの進化で、散らかった部屋でも物体を正確に認識・分類できるようになった
- マニピュレーション技術が成熟し、柔らかい衣類を掴んで畳む精度が実用レベルに到達
- 一般販売予定の製品が複数あり、「研究段階」から「消費者向け商品」に移行した

2026年AIデバイスー注目すべきタイムライン

2026年2月

Tiiny AI
Pocket
LabがKicksta
rterでキャン
ペーン開始

2026年3月

Pebble Index
01 (\$75
AIリング)
出荷開始

2026年前 半

Ray-Ban
Meta Smart
Glasses
Gen3発表・
日本市場上
陸予定

2026年中 盤

Google x
Samsung x
Warby
ParkerのGem
ini搭載AIグラ
ス発売

2026年後 半

OpenAI x
Jony
Iveのスクリ
ーンレスデバ
イス初公開
・発売へ

2026年内

LG CLOiD・
Dreame
Cyber X・
SwitchBot
Onero
H1が一般販
売開始